

総会に関わる質問

会長 鈴木和弘
理事長 国土将平

4人の会員の方から質問を受けました。質問内容も重複しておりますので、まとめて回答申し上げます。

予算、決算、会費に関する質問に対する回答

「子どもと発育発達」の刊行につきまして、本学会の特徴の一つでもありますので、事業として継続して編集・発刊をしてゆきたいと考えております。なお、「子どもと発育発達」の出版をお願いしております杏林書院は、体育・スポーツに関わる多くの刊行物を手がけており、本学会も市場価格を考慮した上で契約しております。

大会補助金について、総会資料でも説明しておりますように、1月末に会計年度が終了となっており、それまでに、年次学会補助金の支払いが完了していないため、2月以降の翌年度の支払いとなっております。

相談料につきまして、法人格取得、各種規定についての法律上の相談、2010年からの幼少年体育指導士会との問題に関する相談料等として支出しました。予算項目にはありませんので、理事会の承認をうけ、予備費から支出しました。

その他、様々な観点からシミュレーションを実施しましたが、予算と決算の関係から学会費の値上げはやむを得ないと考えました。本年度の値上げも想定しましたが、周知期間を設けるために、来年度からとしました。

役員選出方法に関わる質問に対する回答

選出の方法について、これまでの理事会において会務のデジタル化を含んだWeb投票も検討しましたが、システム導入費を含めて、金銭的な負担が学会規模に見合わず、断念しました。総会資料にも示しましたように、現在まで、よりよい選挙制度の構築にむけて、検討してまいりました。

「第三者」は名誉会員等を想定しています。これは、客観的資料に基づいて評議員候補者を選出しますが、その選出が適切に行われているかを「第三者」によって確認する意図をもっております。評議員数は正会員の10分の1から20分の1程度を想定しています。

また、頂いたご意見を検討、参考にしつつ学会運営をすすめてまいりたいと思います。